

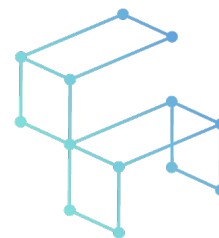
プログラミング第1同演習

演習課題の採点について

慶應義塾大学 理工学部 情報工学科

講義担当：河野 健二

演習担当：杉浦 裕太



LIFESTYLE
COMPUTING

- 環境
 - ITCのLinux環境と同じもので採点をしていく
 - 各自の環境で課題に取り組む予定の人は注意
 - 例：for文内の変数宣言など
 - 独自環境で取り組む場合も、ITC環境で動作するかどうかを確認
- 採点方法
 - 出力結果を確認する
 - コードの中身を確認する
 - プロ1は計算機で自動採点をするのではないかと噂があるかもしれないが、そんなことは全くないので注意
- 方針
 - 何を確認したいのか
 - それまでの授業で習得してもらいたいことを理解した上で、演習課題に取り組むことができるか

- 減点や点数がつかない例
 - 関数の回で関数を使っていない
 - 再帰の回で再帰を使っていない
- あんまり採点では気にされない例
 - コードの変数名が指定と少し違う
 - 出力結果の細かな違い
 - 半角スペースがない
 - スペルミス
 - **ただ、可能な限り出力結果を合わせてくれた方が、採点者には優しい**
- その演習で取り組んでもらいたい本質的なことは何か、それに取り組むことができているかを意識して課題に取り組んでみてください

- 提出時のファイル名
 - 課題を再提出した際にファイル名がxx-a-xx.c からxx-a-xx-x.cのように変わってしまうようだが、これは採点上問題無い

- 【必須】すらやらないようだとDの可能性大
- 【標準】は普通の課題。ここまでやればSやAもつく
- 【ボーナス】は難しめ。できなくて良い
- 【チャレンジ】は超難しい。腕に自信のある学生向け

毎年↑を見て、ギリギリを狙って【必須】のみを提出してくる学生がいるが、その場合、提出内容の中で解答ミスがあった場合に、単位に到達しない可能性がある

【必須】はすべて解答ができていてようやく単位が付く、という程度の理解で今後の課題に取り組むと良い